

## 第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクターの抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

### 1. 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和4年2月9日

作成担当部署 上勝町役場産業課

### 2. 第三セクター等の概要

法人名 株式会社上勝バイオ

代表者名 代表取締役 濱田光且

所在地 徳島県勝浦郡上勝町大字旭字蔭51番地

設立年月日 平成3年4月12日

資本金 344,000,000円

【うち上勝町の出資額(出資割合) 330,400,000円(96.0%)】

業務内容 菌床椎茸の生産及び販売

### 3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社上勝バイオは雇用の場の確保や菌床椎茸を核とした町の活性化を目的とし平成3年4月に設立された。菌床ホダ木の製造販売を主として運営していたが、中国産椎茸の輸入による椎茸の市場価格の低迷や取引先の倒産等により経営が悪化した。

平成11年度決算において初めて債務超過となる。

町は上勝バイオ再建のため平成12年度に上勝バイオの建物や土地を購入し町の施設として管理運営を上勝バイオへ委託した。施設の町有化により、減価償却費や固定資産税の減額で経営のスリム化を図ったが、平成12年度決算においても債務超過となる。

町は上勝バイオ支援のため平成26年度に増資をし、また平成28年度には上勝バイオ再建支援として補助金を交付した。これにより未払金等を一扫することができた。

平成29年1月より経営者を一新し、菌床ホダ木製造から菌床椎茸生産に転換した。従業員は77名から10名に減少、平成29年度は黒字決算となる。

平成30年度及び令和元年度は菌床椎茸の価格低迷等によりともに赤字決算となり、令和元年度は6,601千円の債務超過となる。

令和2年度は菌床ホダ木仕入額や電気使用料の経費の削減、またコロナ禍での巣ごもり需要で2,472千円の黒字決算となった。これにより債務超過額は4,170千円に減少した。

### 4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

施設は老朽化しているが、町の施設であり大規模な修繕は町が行っている。

近年では平成29年度決算及び令和2年度決算が黒字決算であったことから、今後においても黒字決算は可能であり、債務超過の解消を図ることはできると考えている。

## 5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的対応

令和元年度に木質バイオマスボイラーの新設、令和2年度に老朽化した空調設備を更新し、これにより電気使用料の削減を図ることができた。また、令和2年度より菌床ホダ木を安価に仕入れすることができるようになったため経費の削減を図ることができた。

今後、菌床椎茸の栽培管理の安定化を図り、また繁忙期は人材不足となりがちであるが、募集をかける等人材確保を図る。そして秋から冬場の価格の高い時期に安定して出荷できるよう努める。

資本金が1億円を超え外形標準課税の対象法人となっており赤字でも多額の税金がかかり負担となっている。

(参考)

## 6. 法人の財務状況

貸借対照表から

(単位：千円)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産総額	33,798	28,872	28,383
(うち現預金)	6,239	5,973	9,286
(うち売上債権)	8,937	7,512	7,666
(うち棚卸資産)	12,654	10,445	7,171
負債総額	30,449	35,473	32,553
(うち上勝町からの借入金)	0	0	0
純資産額	3,349	△6,601	△4,170

損益計算書から

(単位：千円)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
経常収益	49,661	54,389	67,147
経常費用	56,353	62,253	62,248
経常損益	△6,692	△7,864	4,899
経常外損益	0	0	136
当期純損益	△8,539	△9,875	2,473